
青山宏夫年譜

- 1956年（昭和31年）
栃木県に生まれる
- 1975年（昭和50年）
3月 栃木県立佐野高等学校卒業
- 1980年（昭和55年）
3月 京都大学文学部卒業
- 1983年（昭和58年）
9月 京都大学大学院文学研究科博士後期課程退学
10月 東京都立大学理学部助手
- 1988年（昭和63年）
4月 新潟大学人文学部専任講師
- 1990年（平成2年）
4月 新潟大学人文学部助教授
- 1998年（平成10年）
4月 国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授
4月 新潟大学人文学部助教授（併任）（平成11年3月31日まで）
- 1999年（平成11年）
4月 総合研究大学院大学文化科学研究科助教授（併任）
- 2004年（平成16年）
4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部助教授
4月 総合研究大学院大学担当助教授（文化科学研究科担当）（任命）
- 2006年（平成18年）
3月 京都大学博士（文学）
- 2007年（平成19年）
4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部准教授（配置換）
4月 総合研究大学院大学担当准教授（文化科学研究科担当）（配置換）
- 2008年（平成20年）
4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授
4月 総合研究大学院大学担当教授（文化科学研究科担当）（任命）（令和2年3月31日まで）
5月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員（任命）（平成25年3月31日まで）
- 2009年（平成21年）
4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究推進センター長（併任）（平成23年3月31日まで）
- 2011年（平成23年）
4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長（併任）（平成25年3月31日まで）
4月 人間文化研究機構教育研究評議会評議員（指名）（平成25年3月31日まで）
- 2014年（平成26年）
4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館副館長（併任）（平成29年3月31日まで）
4月 人間文化研究機構企画・連携・広報室員（任命）（平成26年7月31日まで）
5月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員（任命）（平成29年3月31日まで）
8月 人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター設置準備室員（任命）（平成28年3月31日まで）
- 2016年（平成28年）
4月 人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター運営委員会委員（任命）（平成29年3月31日まで）
-

で)

2018年(平成30年)

4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館運営会議委員(任命)(令和2年3月31日まで)

2020年(令和2年)

4月 人間文化研究機構理事

4月 国立歴史民俗博物館研究部教授(併任)(令和4年3月31日まで)

2022年(令和4年)

3月 人間文化研究機構理事を任期満了により退職

表彰等

日本地理学会賞(論文発信部門) 2011年3月

社会的活動

〈所属学会〉

人文地理学会, 日本地理学会, 歴史地理学会, 史学研究会ほか

〈大学等〉

國學院大学非常勤講師(1986年度~1987年度, 1999年度~2000年度)

山形大学人文学部非常勤講師(1990年度)

富山大学教育学部非常勤講師(1995年度)

新潟大学人文学部非常勤講師(1999年度)

慶應義塾大学文学部非常勤講師(2002年度~2005年度)

神戸大学文学部非常勤講師(2003年度)

国際日本文化研究センター共同研究員(2004年度~2006年度)

高崎経済大学地域政策学部非常勤講師(2006年度~2019年度)

東京大学史料編纂所画像史料解析センター客員助教授・客員准教授(2006年度~2007年度)

放送大学非常勤講師(2008年度)

京都大学文学部非常勤講師(2011年度)

国立民族学博物館文化資源共同研究員(2016年度)

長崎大学大学院多文化社会学研究科非常勤講師(2018年度)

ほか

青山宏夫主要業績目録

I 著書

1. 『前近代地図の空間と知』（単著） 校倉書房 426頁 2007年3月

II 論文

1. 「絵地図解読の試み—日根野絵地図を例として—」 京都大学文学部地理学教室編『空間 景観 イメージ』 地人書房 186～196頁 1983年9月
2. 「文学からみた『場所のイメージ』—宮澤賢治『グスコブドリの伝記』を例にして—」 『理論地理学ノート』4号 37～44頁 1985年10月
3. “Some Notes on the Structure of Picture-Maps and Spatial Cognition in Medieval Japan,” *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University* 21 (March 1986): 305-319
4. 「足守庄絵図における二つの境界表示」 水津一朗先生退官記念事業会編『人文地理学の視園』 大明堂 245～255頁 1986年4月
5. 「武蔵国鶴見寺尾絵図の構造とコスモス」 葛川絵図研究会編『絵図のコスモロジー』下巻 地人書房 145～166頁 1989年7月
6. 「居多神社四至絵図とその周辺の歴史地理学的諸問題」 『新潟史学』26号 1～25頁 1991年5月
7. 「鳥追い歌に関する地理学的覚書」 『環日本海地域比較史研究』1号 29～40頁 1992年3月
8. 「雁道考—その日本図における意義を中心に—」 『人文地理』44巻5号 21～41頁 1992年10月
9. 「日本海という呼称の成立と展開—地図史からのアプローチ—」 『環日本海地域比較史研究』2号 47～68頁 1993年4月
10. 「荒河保と奥山庄の境界について」 『人文地理』46巻3号 98～112頁 1994年6月
11. 「足守庄絵図」「荒河保上土河・奥山庄桑柄塚相論和与絵図」「波月条近傍絵図」 小山靖憲・下坂守・吉田敏弘編『中世荘園絵図大成』 河出書房新社 52～55頁・86～90頁・91～95頁 1997年5月
12. 「絵図が語る奥山庄の景観」 田村裕・坂井秀弥編『中世の越後と佐渡』 高志書院 149～166頁 1999年6月
13. 「絵図・地図のなかの交通—行基図と中世絵図を中心に—」 『古代交通研究』9号 119～136頁 2000年1月
14. 「行基菩薩説大日本国図に関する若干の考察」 足利健亮先生追悼論文編集委員会編『地図と歴史空間』 大明堂 372～381頁 2000年8月
15. 「地図にみる『日本海』の呼称」 日本海学推進会議編『日本海学の新世纪』 角川書店 72～82頁 2001年3月
16. 「奥山庄の庄境について」 石原潤編『農村空間の研究（上）』 大明堂 176～192頁 2003年3月
17. 「干拓以前の潟湖とその機能—椿海と下総の水上交通試論—」 平川南・青山宏夫編『日本歴史における災害と開発Ⅱ（国立歴史民俗博物館研究報告118集）』 193～217頁 2004年2月
18. 「庄園の境界と紛争」 中条町史編纂委員会編『中条町史 通史編 第6巻』 中条町 343～373頁 2004年3月
19. 「“地理認識”と“日本海”呼称問題について」 中村信吾・多賀秀敏・柑本英雄編『サブリージョンから読み解くEU・東アジア共同体』 弘前大学出版会 69～81頁 2006年9月
20. 「平安京西郊桂川の河道変化と耕地開発—葛野郡班田図から松尾社境内図まで—」 金田章裕編『平安京—京都 都市図と都市構造』 京都大学学術出版会 41～57頁 2007年2月
21. 「日本海という呼称に関する研究の学術的意義」 『E-journal GEO』4巻2号 131～133頁 2010年2月
22. 「明治地籍図の集成的研究」 『国立歴史民俗博物館研究報告』163集（共著） 343～468頁 2011年3月

-
23. 「F.ベアトの江戸パノラマ写真はいつ撮影されたのか」 国立歴史民俗博物館編『風景の記録—写真資料を考える—』19～25頁 2011年11月
 24. 「古地図に描かれた想像世界」 平川南編『日本史と環境—人と自然—』吉川弘文館 231～262頁 2012年10月
 25. 「景観からみる水辺の環境と『開発』」 井原今朝男編『中世の環境と開発・生業』吉川弘文館 88～113頁 2013年3月
 26. “Le Carte Geografiche del Mondo di Matteo Ricci e il Loro Influsso sul Giappone in Epoca Moderna.” In *La Caetografia di Matteo Ricci*, edited by Filippo Mignini, 121-135. Roma: Libreria dello Stato, Istituto Poligrafico e Zecca dello Stato, 2013
 27. 「時間と場所の情報を有する大量の写真資料提示法」『国立歴史民俗博物館研究報告』189集（共著／安達文夫・田中紀之・徳永幸生）41～77頁 2014年1月
 28. 「シーボルトの地図編纂とブランデンシュタイン家所蔵資料」 人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館編『シーボルトが紹介したかった日本』国立歴史民俗博物館 117～131頁 2015年3月
 29. “The Impact of Ricci’s World Maps on the Edo period of Japan.” In *Reimagining the Globe and Cultural Exchange: From the World Maps of Ricci and Verbiest to Google*, 112-115. University of San Francisco, April 2016.
 30. 「博物館資料を多角的に読む—風景写真を事例に—」 国立歴史民俗博物館編『〈総合資料学〉の挑戦—異分野融合研究の最前線—』吉川弘文館 120～135頁 2017年2月
 31. 「シーボルトが手に入れた日本図と日本の地理情報」『地図』56巻1号 24～39頁 2018年3月
 32. 「地名『カリヤド』と渡河の景観—関東の事例から—」 金田章裕編『景観史と歴史地理学』吉川弘文館 104～128頁 2018年4月
 33. 「地図空間と地理思想」 王志宇・李建緯（主編）・蔡馨慧（編輯）『文献・文物的詮釋與歷史記憶』逢甲大學歷史與文物研究所 1～24頁 2019年4月
 34. 「東北地方のカリヤドという地名—中世の道と渡河—」『史林』102巻5号 69～93頁 2019年9月
 35. 「伊能図からシーボルト日本図へ—その編纂過程と地図史上の意義について—」 平井松午編『伊能忠敬の地図作製—伊能図・シーボルト日本図を検証する』古今書院 233～248頁 2022年2月

Ⅲ 展示図録・報告書等

1. 科学研究費報告書『日本海とその周辺諸地域の地理的知識の形成と日本海の呼称に関する研究』（単著）新潟大学人文学部 142頁 1997年3月
2. 「水木コレクションの古地図たち」 国立歴史民俗博物館企画展示図録『収集家100年の軌跡—水木コレクションのすべて—』88～90頁 1998年10月
3. 「絵図から読む慧日寺とその周辺の地理的位置」 国立歴史民俗博物館企画展示図録『なにが分かるか、社寺境内図』100～104頁 2001年10月
4. 「寺院とそこに伝わる絵図」「宇治の茶園」 国立歴史民俗博物館企画展示図録『中世寺院の姿とくらし』106～107頁・110～111頁 2002年10月
5. 「絵図・地図」 国立歴史民俗博物館資料目録『水木家資料目録』333～357頁 2003年3月
6. 国立歴史民俗博物館企画展示図録『風景の記録—写真資料を考える—』（展示代表者）155頁 2011年11月
7. 「ドイツにおける日本研究と日本」 国立歴史民俗博物館企画展示図録『ドイツと日本を結ぶもの—一日独修好150年の歴史』101～104頁 2015年7月
8. 日本関連在外資料調査研究報告書『オランダ・ドイツに所在するシーボルト関係地図資料—ライデン・ミュンヘン・ブランデンシュタイン城を中心に—』（編著）国立歴史民俗博物館 97頁 2016年3月
9. 「シーボルトの日本研究と地図」「シーボルトに渡った伊能日本図」 国立歴史民俗博物館企画展示図録『よみがえれ！シーボルトの日本博物館』青幻舎 34～41頁・42～43頁 2016年7月